

機関名	流域治水の分類	取り組み内容	ページ
倉敷市	氾濫を防ぐ・減らす	<ul style="list-style-type: none"> 農業用水路の事前排水と田んぼダムによる貯水容量の確保 浸水に強い住宅の建て方等について普及を促進 防災活動における拠点施設の整備 	1
	被害対象を減らす		2
	被害の軽減・復旧等		3
総社市	被害対象を減らす	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトなまちづくりを推進するため都市全体を見渡した立地適正化計画を策定 災害リスク早期把握のための監視設備整備 	4
	被害の軽減・復旧等		5
高梁市	被害の軽減・復旧等	<ul style="list-style-type: none"> AR技術を活用した防災学習の実施 自主防災組織設立・活動マニュアルの作成 	6
	被害の軽減・復旧等		7
新見市	被害の軽減・復旧等	より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化	8
浅口市	被害の軽減・復旧等	防災行政無線及び防災アプリの整備	9
早島町	被害の軽減・復旧等	防災教育や防災知識の普及	10
笠岡市	被害の軽減・復旧等	登録型防災メールの普及啓発の実施	11
里庄町	被害の軽減・復旧等	河川カメラ設置による水位情報配信	12
矢掛町	被害対象を減らす	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画の策定 排水機場の新設 	13
	氾濫を防ぐ・減らす		14
井原市	氾濫を防ぐ・減らす	内水排除ポンプの整備	15

農業用水路の事前排水と田んぼダムによる貯水容量の確保

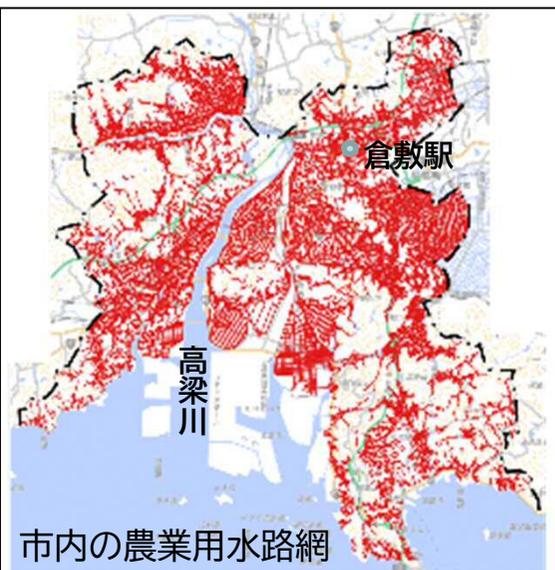
- 大雨が予想される場合に、事前に高梁川からの取水を中止するとともに、農業用水路の樋門を開放し、用水路の水位を低下させ貯水容量を確保
- 田んぼダムの実証試験を実施し、平成30年西日本豪雨と同程度の雨が降った場合、水田からのピーク時の排水量を5～6割程度抑制する効果を確認し、翌年度から普及・啓発、取組を実施

農業用水路の事前排水の取組

- 平成23年の台風12号の被害を契機に、農業用水路の水位調整の取組を強化



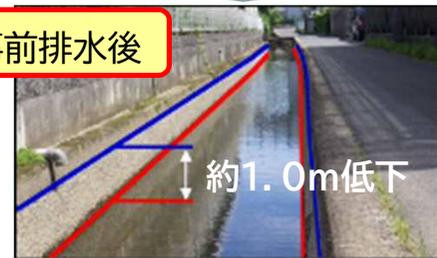
- 市内の農業用水路（平地部総延長約1.5km）の水位を約1.0m低下させた場合、**約300万 m^3** の貯水容量を確保



事前排水前



事前排水後



田んぼダムの取組

- 平成30年度7月豪雨を契機に、令和元年度に開始



＜市独自の支援＞

- 排水柵取替や畦畔補強を市で支援
- 田んぼダム用堰板を無償で提供
- 耕作者に堰板・のぼり旗の管理業務を委託
1,000円/排水柵

＜普及啓発＞

- のぼり旗設置
- 地元住民を対象とした説明会の実施



田んぼダム無し



田んぼダム有り

支援・普及の結果、R5年度には、農地**約37ha**で取組

貯水効果
1.85万 m^3 (25mプール 約31杯分)
※現在より5cm高く貯水すると仮定

浸水に強い住宅の建て方等について普及を促進

- 浸水に強い住宅の建て方等についてHP等により事例紹介し、建築関係団体等との連携など普及を促進。

建築指導課HP

建築指導課HP

○事例紹介

平成30年度から家庭で役立つ防災(国土交通省作成)を紹介

【水害前から水害後の応急修理・復旧まで・応急対応シート】

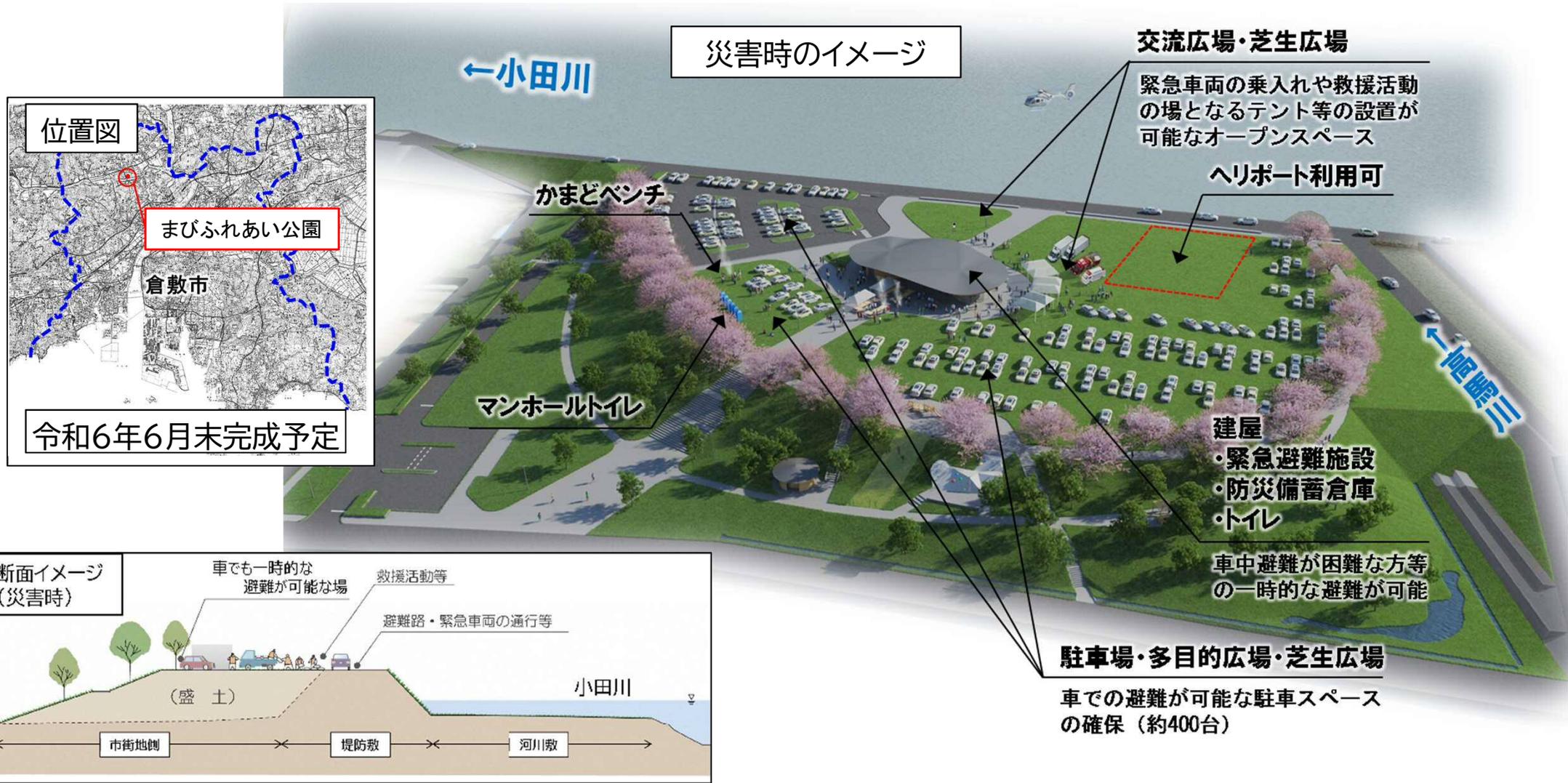
○建築相談の概要

真備地区において、水害被災住宅の修理や再建に関する皆様の不安や疑問について、建築指導課が窓口となり、岡山県建築士会倉敷支部が作成した冊子等も活用し、技術的な面から相談に応じる。

記載例: バランダから屋上へ避難、屋上ハッチ、LDKと水回り設備を2階へ配置

防災活動における拠点施設の整備

- 災害時には救援活動や一時的に避難できる場、平常時には防災教育の場や魅力発信の場として、まびふれあい公園を整備。



防災備蓄倉庫、ヘリポート、救援活動や緊急車両の駐車、車でも一時的な避難が可能な場等を整備

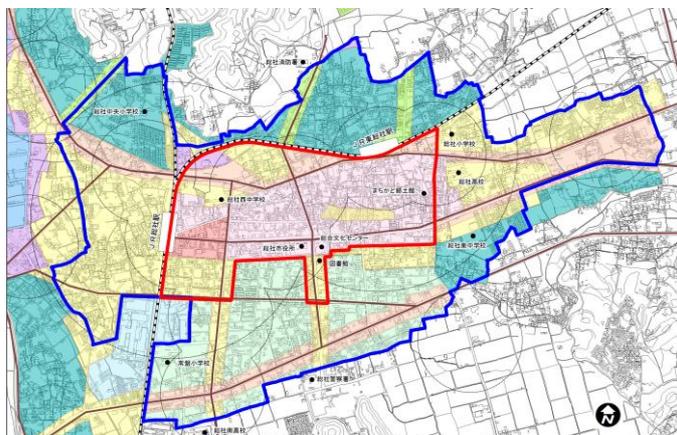
- 都市機能・人口の維集積を図り、持続可能で暮らしやすい都市づくりを推進する。

【策定の目的】

「総社市都市計画マスタープラン」を都市計画の長期的な展望、都市づくりの総合的な指針として踏まえつつ、これまで積み上げてきたまちづくりのうえに、将来を見据えた、持続可能な都市を実現するための“コンパクトなまちづくり”を推進するものとして策定したものの。

【各誘導区域の設定】

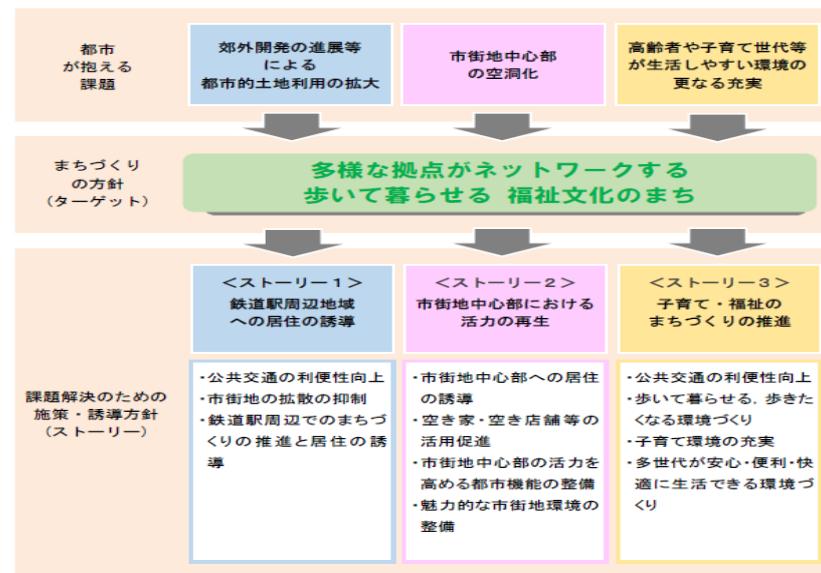
都市機能誘導区域及び居住誘導区域については、都市機能や人口の集積状況、交通利便性、災害リスク等を総合的に勘案して設定。水害リスクについては計画規模洪水で浸水深2m越と予想される区域は居住誘導区域・都市機能誘導区域に含めないとして考慮している。



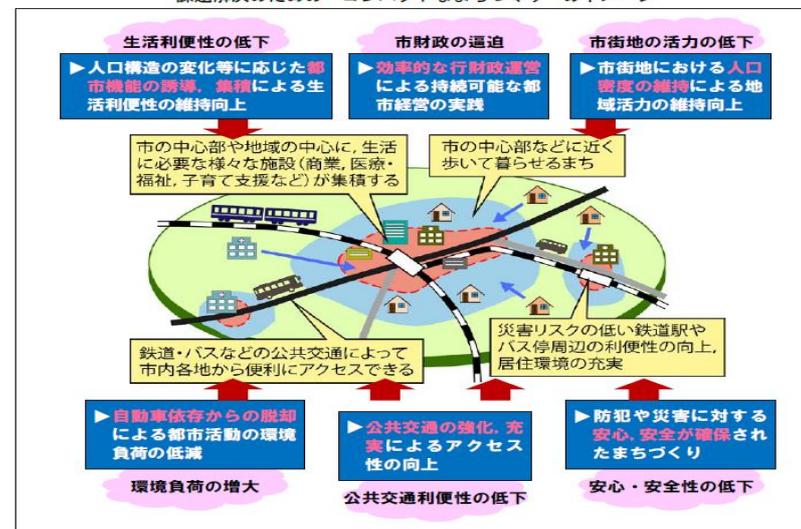
【計画期間】

概ね20年後の2040年を見据えつつ、今後10年以内に優先的に取り組むべき事項を定めるものとして2025年としている。

課題解決のための施策・誘導方針（ストーリー）の設定

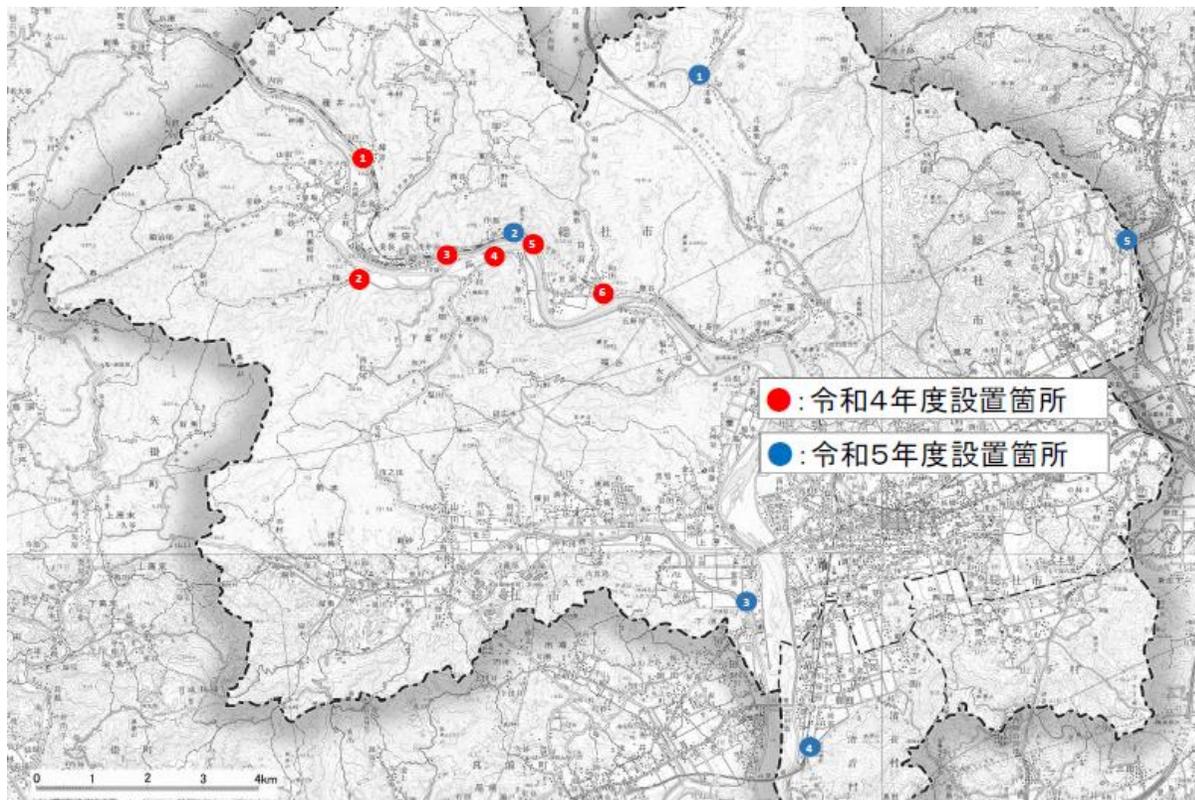


課題解決のための“コンパクトなまちづくり”のイメージ



- 高梁川の増水や局地的な降雨による内水氾濫・道路の冠水等を早期に把握し、迅速な避難情報の発令等を行うべく、災害リスクが比較的高い11か所に河川監視ライブカメラ(動画)を整備。

ライブカメラ設置位置



R4年度～R5年度11か所設置(R6年度2カ所設置予定)

- リモートで360度可動式、赤外線で夜間でも監視可
- 道路や河川の状況をリアルタイムに把握
- 将来的には市民への公開も検討



ライブカメラからの映像



災害対策本部で活用

AR技術を活用した防災学習の実施



市内の小学校・中学校で防災学習を実施し、防災マップを使って「マイ・タイムライン」を作成しています。

令和4年度からは、ARゴーグルによる浸水疑似体験の導入により、浸水が始まってからの避難は濁った水で足元が見えず、とても危険であることを体験してもらいました。 障害物を置く体験では足元が見えない状況では歩行が非常に危険であることも学習しました。



また、子供たちが協力してワンタッチパーテーションと簡易ベッドを組み立て、ベッドに横になってみたりして避難所体験も行っています。

タブレットを使っての防災学習では、災害情報の取得方法や、自分の居住区域の災害リスクの確認方法などを学んでいます。



ARゴーグルで浸水疑似体験



避難所体験



マイ・タイムラインの作成



タブレットで防災マップを確認

令和5年度から地震・火災を疑似体験できるVRゴーグル導入し、各所の訓練等で使用し好評を得ています。令和5年度には5校(145名)がAR・VRゴーグルでの防災学習を実施しました。学校以外では自主防災組織などの訓練時に使用し、29回、747名が体験しています。

自主防災組織設立・活動マニュアルの作成

平成30年7月豪雨災害の教訓から、自助・共助・公助の相互連携による防災体制強化を図り、市民と行政の協働による地域防災力の向上に係る取組みの調査・指導・助言を行うため「高梁市地域防災力向上委員会」を防災会議の専門委員として、令和元年11月に設置した。

具体的な活動内容として、地域防災の目標を示した「高梁市地域防災力向上の目標・行動計画」を策定。策定にあたり市民アンケートを実施し、市民一人ひとりが自らの命を守る行動がとれる目標設定を行いました。

また、自主防災組織の設立支援等モデル地区を市内3地区を選定し、組織化に向けて防災マップの作成や地区防災計画の作成、防災研修や訓練、ワークショップ等を通じて防災力向上のノウハウを蓄積するなどして、令和5年度に「自主防災組織設立・活動マニュアル」を作成。

令和5年11月に4年間の委員会(9回)、研修・訓練・ワークショップ(15回)など活動内容と提言をまとめた「調査報告書」が委員長(岡大三村教授)から市長へ手渡された。

自主防災組織の結成に向けて本マニュアルを十分活用するとともに、組織活動の参考としても活用してゆく。



モデル地区でワークショップ



モデル地区で活動報告会



設立・活動マニュアル



結成を呼び掛けるチラシ

市内の自主防災組織は世帯カバー率38.1%(33組織)であり、今後の組織化を推進

関係機関が連携し新型コロナウイルスを踏まえた(R3年度～)実動水防訓練の実施



■開催日時 : 令和5年11月19日(日)
10:00~12:15

■開催場所 : 新見市立新見南中学校

■主 催 : 岡山県・新見市

■参加機関 : 50機関

■参加者 : 550名

■訓練想定:

令和5年11月19日(日)10時00分、鳥取県西部を震源域とするマグニチュード7クラスの地震が発生し、県内では最大震度6強を観測、県北部では被害の発生が相次いだ。



- 岡山県と共催で、総合防災訓練を実施した。
- 屋外訓練では、ドローンによる情報収集、令和5年2月に配備したブーム付多目的消防ポンプ自動車による人命救助、被災車両からの人命救助訓練を行った。
- 屋内訓練では、感染症に配慮した避難所開設・運営訓練を行うとともに、日赤やDWATなど関係機関との連携を確かめた。

防災行政無線及び防災アプリの整備

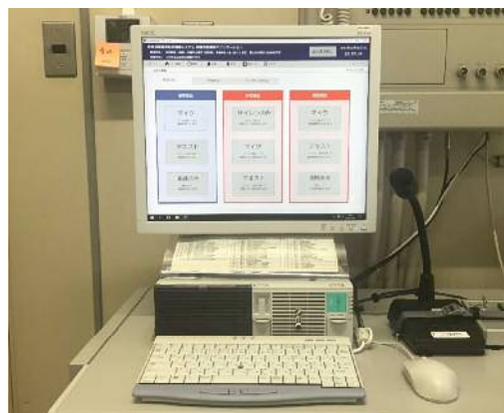
- 市内47か所へ防災行政無線(屋外スピーカー)を整備【令和5年度工事完了・運用開始】
- 防災情報伝達手段の多重化・多様化を図るため防災アプリを整備し各種ツールと連動させ、情報を迅速かつ正確に伝達する体制を構築【メール・LINE・緊急告知ラジオ】

防災行政無線

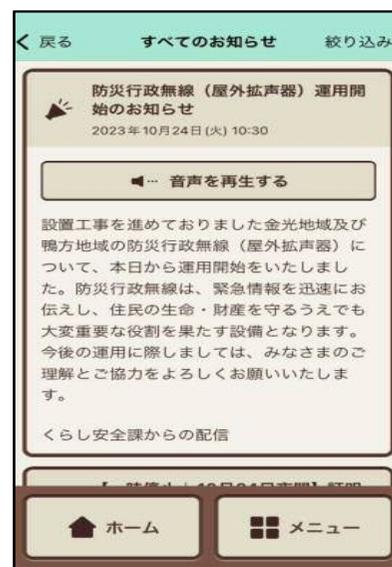
- ・令和5年10月に全面運用開始
- ・放送内容は防災アプリと電話応答サービスで確認可能



屋外スピーカー



同報利用制御装置



防災アプリ

- ・令和5年4月より運用開始
- ・緊急情報を文字と音声でお知らせ
- ・「キキクル」や「おかやま防災ポータル」等にリンク可能
- ・現在地から指定避難所までのルート確認が可能

■親子を対象とした「防災デイキャンプ」の実施

小学生以上の親子を対象に、早島町ふれあいの森公園にて「防災デイキャンプ」を開催し、地域の防災意識向上を図る取り組みを実施した。

■防災デイキャンプ早島 令和5年10月22日(日)10時～15時

小学生以上の親子40組を対象に、町内のキャンプ場で、防災について学べるイベントを新聞社等企業や、町の共催により実施しました。水消火器を使用した消火訓練、炊き出し、バケツリレーなどを参加者が親子で楽しみながら実際に体験しました。



登録型防災メールの普及啓発の実施

- 普及率が高い携帯電話，スマートフォン等にメール，LINEで災害情報等を配信し，より多くの市民に，正確かつ迅速に災害情報を伝え，適切な避難行動に繋げることを目指している。

LINE 災害情報などをLINEでお知らせするサービスを開始しました!

配信情報

- ・気象情報(大雨警報など)
- ・災害情報(避難勧告, 避難所情報など)
- ・火災情報
- ・行方不明者情報, オキシダント情報, 新型コロナ情報

QRコードを読み取り
友だち追加!

友だち追加の検索でも登録できますー@909hvkbe

友達に追加後は
LINEのトーク画面に従って
登録を進めてください

問合せ先 危機管理課
0865-69-2222

【LINE配信サービスチラシ】

登録無料

**緊急情報メール
登録のお願い**

配信情報

- ・気象情報(大雨警報など)
- ・災害情報(避難指示, 避難所情報など)
- ・火災情報
- ・行方不明者情報, オキシダント情報

※新型コロナウイルス感染症に関する情報も配信しています
笠岡市からの緊急なお知らせなどはこのメールを通じて配信しますので，この機会に登録をお願いします!



ガラケー向け



スマートフォン向け

- ①QRコードを読み取る
- ②表示されたアドレスに空メールを送る
- ③登録用メールが送付されたらURLから必要事項を入力し登録

※注意

- ①メールの登録料は無料ですが，通信費は個人負担となります
- ②迷惑メールの設定をしている方はメールが届かない可能性がありますので，設定されている方はお使いの携帯電話会社にご相談ください。
- ③QRコードが使用できない場合は空メールで「t-kasaoka-city@sg-p.jp」に送信すると登録用メールが送付されます。

登録が不安な方は危機管理課(本庁3階)までご相談ください



LINEをお使いの方は左のQRコードから登録をお願いします
問合せ先:笠岡市危機管理課(0865-69-2222)

【緊急情報メール啓発チラシ】



【出前講座での登録会】



【出前講座での啓発】

取組は，令和2年度から実施している。

河川カメラ設置による水位情報配信

- 平成31年4月に岡山県から里見川の浸水想定区域の指定を受けていることから、災害発生時に里見川周辺の地区住民に水位の状況等を伝える必要があるため、当該箇所に河川カメラを設置。

- (1) 町は地元CATV会社と協定を締結し、次のとおり河川カメラを設置。
- (2) 地元CATV会社は、維持管理及び自社のコミュニティチャンネルで放送。

【実際の放送画像】



【量水標設置写真】



- 【設置場所】 岡山県浅口郡里庄町大字里見4582番地付近
- 【設置台数】 1台 ※量水標も設置済
- 【放送時間】 毎時30分から00分まで
- 【今後の計画】 内水氾濫のおそれのある水路等にも今後、設置を検討していく。

- 平成30年7月に発生した西日本豪雨の際には、小田川の水位が上昇し、河川水の逆流による浸水被害が発生。再度浸水被害防止の観点から、内水排除として排水ポンプを新設。

- 令和2年度～3年度に実施
- 排水ポンプの設置により、床下浸水戸数5件→床下浸水戸数0件に減少が期待される



出典：国土地理院地図

矢掛町小田地内有木谷地区

有木谷西ポンプ場：φ200mm×2台 0.19m³/sec(水中ポンプ)
 有木谷東ポンプ場：φ300mm×1台 0.45m³/sec(エンジンポンプ)
 φ400mm×1台 0.28m³/sec(水中ポンプ)

立地適正化計画の策定

- 将来にわたり持続可能な都市構造とするための都市づくりの方針となる計画を策定する。

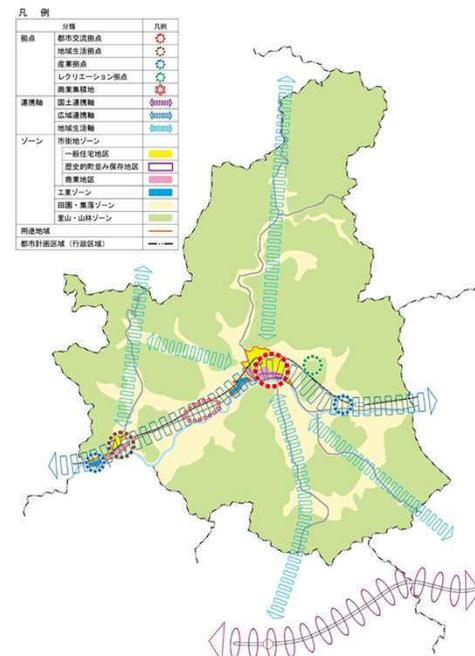
R2年度は、立地適正化計画の策定に向けて、現状及び課題の整理、まちづくりの方針等の検討を行った。R3年度は、浸水リスク、居住誘導区域及び都市機能誘導施設の検討、議論を行った。R4年度は素案を作成し、パブリックコメント、都市計画審議会を経て、計画策定。

本町の都市構造に係る主要課題として、「持続可能で暮らしやすいまちづくり」などが抽出される中で、「移動」や「連携」は特に町民意識が高いという結果が得られている。また昨今、本町では歴史・文化資源を生かした観光施策を積極的に取り組んでいることから、立地適正化計画では、持続可能なまちづくりの目標として、『人と地域を繋ぎ 豊かさを未来に紡ぐ 対流促進のまち やかげ』を設定する。

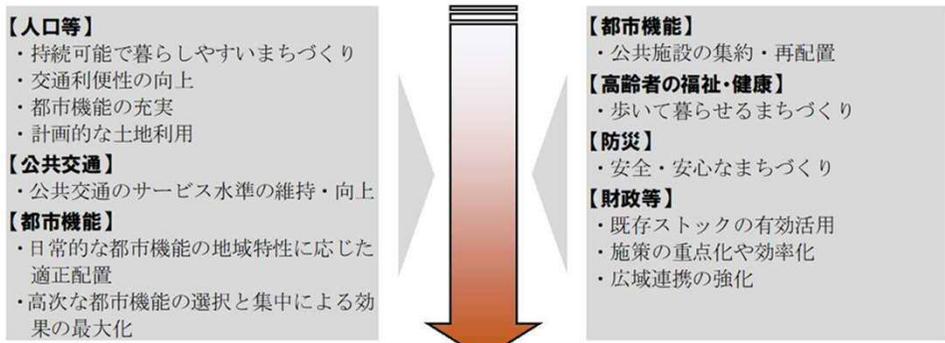
立地適正化計画に基づき「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を実現することで人口密度を維持し、都市機能の存続が期待できる。

令和2年度～令和4年度

- 都市交流拠点
⇒都市活動や観光交流の中核としての機能を果たす拠点として、既存ストックを有効活用しながら、魅力や生活利便性、交通利便性の維持・向上に努めます。
- 地域生活拠点
⇒周辺地域の核としての機能を果たす拠点として、既存ストックを有効活用しながら、生活利便性や交通利便性の維持に努めます。
- 商業集積地
⇒周辺の生活環境に悪影響を及ぼさない範囲で沿道型のサービス機能の維持を図ります。
- 広域連携軸
⇒施設整備や機能充実などを進め、近隣市町から中四国の主要都市への連携強化を図ります。また、公共交通の基幹軸として、沿線の居住人口を確保するとともに、サービス水準の維持・向上を図ります。



まちの将来像 ※第6次矢掛町振興計画を踏襲
やさしさにあふれ かいてきて げんきなまち



人と地域を繋ぎ 豊かさを未来に紡ぐ
対流促進のまち やかげ

内水排除ポンプ施設の整備

- 内水排除ポンプ施設を整備することにより、内水被害リスクを軽減。



【排水ポンプ施設の整備状況】

- ・ 倉掛排水ポンプ場(H24)
- ・ 柳ヶ坪排水ポンプ場(H24)
- ・ 首高排水ポンプ場(H24)
- ・ 北側排水ポンプ場(H30)
- ・ 西町下水道排水ポンプ場(R3)
- ・ 首高排水ポンプ場(R3増設)
- ・ 南部下水道排水ポンプ場(新設)
→令和4年10月完成

平成30年7月豪雨の内水被害箇所について、内水被害を軽減するため、内水排除ポンプ施設整備を計画

令和2年度から内水排除ポンプ施設の整備着手

令和3年8月の長雨時、ポンプ施設を設置した箇所から、内水被害の報告は無く、ポンプ施設設置の効果が考えられる

今後、河川管理者である岡山県と協議し、ポンプ施設の追加整備を検討する



南部排水ポンプ場
(R4新設)



首高排水ポンプ場
(R3増設)



西町排水ポンプ場
(R3新設)